

令和2年度天皇杯受賞者受賞理由概要  
畜産部門

離島のハンディキャップを放牧や生産技術で克服した高収益和牛繁殖経営

○氏名又は名称 松崎 秀利・松崎 弘子

○所在地 長崎県北松浦郡小値賀町

○出品財 経営（肉用牛繁殖）

○受賞理由

・地域の概要

小値賀島は、長崎県佐世保市から約60km離れた五島列島北部に位置する離島で、佐世保港から島への船は1日5便、所要時間はフェリーで3時間である。町の主要農業部門は肉用牛で全体の3分の2を占めている。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

松崎秀利氏は、父から20頭の繁殖牛を継承したが、自家産牛の保留を中心に、3～4割は優秀な血統牛を外部導入して育種改良を図りつつ堅実に増頭し、74頭まで規模拡大した。並行して耕作放棄地や遊休農地を再生し、放牧及び飼料畑面積を当初の約2倍に拡大した。

・受賞者の特色

(1) 施設投資を抑え放牧活用と自給飼料の増産による省力・低コスト経営

保有する施設は30頭収容牛舎と堆肥舎のみである。青空スタンション（放牧場に設置した連動スタンション）と8つの牧区を綿密に活用し周年放牧に近い形態で管理し足腰の強い健康な牛を作り、自給飼料の増産で成牛の粗飼料自給率100%を達成、省力・低コスト生産を実現している。

(2) 優れた飼養管理技術や育種改良に裏付けされた高収益経営

分娩間隔は365日（全国平均400日（令和2年））と全国トップレベルであり、監視カメラとスマホを連動させた監視により分娩時の事故は平成28年以降ゼロである。積極的に育種改良に取り組み、全国和牛共進会の優等賞受賞牛や県種雄牛の指定交配選抜牛を生産するなど、能力の高い繁殖牛群を作出・維持し、子牛販売価格も市場平均を上回っている。

(3) 女性の活躍

弘子氏は、福岡で会社勤めの秀利氏が就農するまでの5年間、3人の娘と島に移住し、育児をしながら初めて経験する肉用牛管理を担った。きめ細やかかつ適切に子牛を管理し、事故の少ない経営を行うとともに、研修生への技術指導や生活支援など経営に大きく貢献している。また、島内婦人部会にも所属し様々な活動を行っている。

・普及性と今後の発展方向

良好な繁殖成績を継続する肉用牛繁殖農家の模範事例である。夫妻のもとで2年間研修した1名は技術を継承し島内で新規就農を果たしている。「分娩監視カメラ」や「青空スタンション」など具体的技術は島内の数農家に取り入れられ波及している。普及指導員等研修生も受け入れ、優れた経営・技術は今後も普及していくと期待できる。